



評 定 書 (工法等)

申込者 株式会社コトブキ産業 代表取締役 才田 洋介 様

件 名 GSB工法 (オールケーシング全周回転式場所打ちコンクリート杭拡底工法)

平成29年12月15日付けで評定の申し込みのあった本件については、下記のとおり評定申込事項に係る技術的基準に適合しているものと評定します。

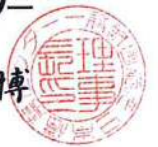
なお、本評定書の有効期間は、本評定日より平成35年1月24日までとします。

平成 29 年 12 月 15 日



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

理事長 橋本 公博



記

1. 評定申込事項

本件は、「場所打ちコンクリート拡底ぐい評定方針 (平成 26 年 10 月 24 日改訂)」に係る評定の申込みがなされたものである。

2. 区分

更新

3. 評定をした構造方法等

別紙 1 のとおり

4. 評定の内容

(1) 方法

本評定は、基礎評定委員会 (委員長: 安達俊夫) において、申込者から提出された資料に基づき審査を行ったものである。

(2) 審査内容

別紙 2 のとおり

5. 備考

本評定は、設計・施工・品質管理等が適切に行われることを前提に、提出された資料に基づいて行ったものであり、個々の製品の製造並びに工事等の実施過程及び実施結果の適切性は評定の範囲に含まれていない。

1) コンクリートの許容応力度

本工法により打設されるコンクリートの許容応力度は、平成13年国土交通省告示第1113号第8第1項第一号の表中のくい体の打設の方法(一)に該当するものとして、表-1のとおりとする。

表-1 コンクリートの許容応力度 (N/mm²)

くい体の打設の方法		長期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 N/mm ²)			短期に生ずる力に対する許容応力度 (単位 N/mm ²)		
		圧縮	せん断	付着	圧縮	せん断	付着
(1)	無水時	$\frac{F}{4}$	$\frac{F}{40}$ 又は $\frac{3}{4} \times (0.49 + \frac{F}{100})$ のうちいずれか小さい数値	$\frac{3}{40} \times F$ 又は $\frac{3}{4} \times (1.35 + \frac{F}{25})$ のうちいずれか小さい数値	長期に生ずる力に対する圧縮の許容応力度の数値の2倍とする。	長期に生ずる力に対するせん断又は付着の許容応力度のそれぞれの数値の1.5倍とする。	
(2)	有水時	$\frac{F}{4.5}$ 又は6.0のうちいずれか小さい数値	$\frac{F}{45}$ 又は $\frac{3}{4} \times (0.49 + \frac{F}{100})$ のうちいずれか小さい数値	$\frac{F}{15}$ 又は $\frac{3}{4} \times (1.35 + \frac{F}{25})$ のうちいずれか小さい数値			

この表において、Fは、設計基準強度(単位：N/mm²)とし、27N/mm²以上33N/mm²以下の範囲とする。なお、コンクリートの呼び強度は、設計基準強度以上とする。構造体強度補正值 (₂₈S₉₁)は、0N/mm²とすることができる。

2) 場所打ちコンクリート拡底杭の形状・寸法

本工法により築造される場所打ちコンクリート拡底杭の形状・寸法は、表-2及び図-1のとおりとする。

表-2 GSB工法における拡底杭の寸法・形状及び拡底率

軸部径 D1(mm)	立上高 H2(mm)	有効拡底径D2(mm)													
		1600	1700	1800	1900	2000	2100	2200	2300	2400	2500	2600	2700	2800	2900
1500	500以上	1.14	1.28	1.44	1.60	1.78	1.96	2.15	2.35	2.56	—	—	—	—	—
1600	500以上	—	1.13	1.27	1.41	1.56	1.72	1.89	2.07	2.25	2.44	—	—	—	—
1800	500以上	—	—	—	1.11	1.24	1.36	1.49	1.63	1.78	1.93	2.09	2.25	—	—
2000	500以上	—	—	—	—	—	1.10	1.21	1.32	1.44	1.56	1.69	1.82	1.96	2.10
拡底施工径 D3(mm)		1700	1800	1900	2000	2100	2200	2300	2400	2500	2600	2700	2800	2900	3000

(注) 拡底率 (r) は有効拡底径における断面積を軸部径における断面積で除した値とする。